

## 『ヨナ書：神はこうして語られる』

聖書の中にはとても興味深い話が出てきます。その筆頭にくるのがヨナ書でありましょう。ヨナ書は子供の絵本になるような話です。ですからこの書を読む人はヨナは架空の人間なのだろうと思います。

しかし、ヨナは聖書中に実際に記録されている実在した人物でありまして、列王記下14章23節から25節にはこう記されています『23 ユダの王ヨアシの子アマジヤの第十五年に、イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムがサマリヤで王となって四十一年の間、世を治めた。24 彼は主の目の前に悪を行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤラベアムの罪を離れなかった。25 彼はハマテの入口からアラバの海まで、イスラエルの領域を回復した。イスラエルの神、主がガテヘベルのアミツタイの子である、そのしもべ預言者ヨナによって言われた言葉のとおりである』この列王記の記録によりますと、そこにはヨナが生きた時代の王の名前とその政権の長さ、ヨナの郷里と父の名前までもが明確に示されています。この記述はヨナが確かに実在した人物だということを示しています。

ヨナ書の要約をまずお話ししましょう。ヨナ書は開口一番、このような言葉で始まります。『1 主の言葉がアミツタイの子ヨナに臨んで言った、2 「立て、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって呼ばわれ。彼らの悪がわたしの前に上ってきたからである」』（ヨナ書1章1節－2節）。

ユダヤ人であったヨナは神様から自国イスラエルの敵であるアッシリアの首都ニネベに行って「ニネベの人達の罪のために、この町は滅ぼされる」ということを警告するようと言われます。言うまでもなくこのアッシリアも歴史上、実在した国でニネベがその首都であったということも史実です。

当時のアッシリアのあったところには今日のイラクがあります。そして、このニネベがあったのは今日、私達がイスラム国関連のニュースでよく聞きますモスルという町です。モスルはかつてイスラム国がその全土を占有していた町です。すなわちこれは今日のユダヤ教徒のラビがICS（イスラム国）の拠点となっているイラクのモスルに行き、拡声マイクを使って罪を悔い改めるようにと叫ぶようなことです。そう考えますとヨナが神様から与えられた

ミッションがどんなものであったかということが分かると思います。

ですから、ヨナは自分たちの脅威となっている敵国アッシリアに行くのを嫌がり、船に乗って反対の方向にあるタルシシに向かいます。しかし『時に主は大風を海の上に起されたので』（ヨナ1章4節）、その船は沈みかけ、船員達の命が危険にさらされます。

このことに対して、彼らはこの嵐はいったい誰のせいかとクジを引きます。そうしましたところ、ヨナにこのクジがあたり、彼は暴風吹き荒れる海に投げいれられます。その海原に投げられたヨナに対して『主は大いなる魚を備えて、ヨナを飲ませられた』（ヨナ1章17節）と聖書は記しています。ヨナは結局、三日三晩、その魚の腹の中にいましたが神様が魚に命じられ、魚はヨナを海岸に生きてそのまま吐きだしました。

人間は誰でも「死ぬ」という宿命を負っています。私にも当然、その日が来ますが、動物に食べられて死ぬのだけはいやだなと思います。熊やライオンにガリガリとかじられながら意識を失っていく自分の姿を想像することはあまりにも痛々しく、それだけは避けたいと思います。ヨナは魚に飲み込まれました。それは「かじられた」のではなく「飲まれた」のですから、それは不幸中の幸いとなりました。かじられたとしたら、肉体が損傷し、おそらくそれが致命傷となりますが、丸のみであるのなら肉体は一応、保たれ、ゆえに肉体に損傷を負うことなく彼は陸に吐き出されました。

このようにノアが三日三晩、魚の腹の中になると、私達は「ほれみる、やっぱりヨナ書はおとぎ話だ」と思うのです。しかし、イエス・キリストはこの古の出来事について淡々とこう語っています。

39 「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、預言者ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。40 すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にあるであろう。41 ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる（マタイ12章39節－41節）。

ここでイエス・キリストはヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたということ話し、そのことが実際にあったように、自分も三日三晩、墓の中にあることになるだろうということをお話しています。

ヨナは大魚の腹の中で「わたしは感謝の声をもって、あなたに犠牲を捧げ、わたしの誓いをはたす。救いは主にある」（ヨナ2章9節）と悔い改めとあらたなる決意を祈っています。ゆえに彼は魚の腹の中で心を入れ替えて、神に示されていたニネベに向かい「40日を経たらニネベは滅びる」と神様の言葉を告げました。

そうしましたら、彼らは王から僕にいたるまで、皆、断食をして悔い改めたというのです。このことにより神様はニネベを滅ぼさずに彼らを救ったのです。しかし、ヨナはこの神様の寛大な対応を非常に不快に感じ、激しく怒り、神様に向かって言います『主よ、わたしがなお国におりました時、この事を申したではありませんか。それでこそわたしは、急いでタルシシにのがれようとしたのです。なぜなら、わたしはあなたが恵み深い神、あわれみあり、怒ることおそく、いつくしみ豊かで、災を思いかえされることを、知っていたからです。3 それで主よ、どうぞ今わたしの命をとってください。わたしにとっては、生きるよりも死ぬ方がまだからです』（ヨナ4章2節、3節）。

ヨナとしては敵国には滅びてもらいたい、滅んでもらわなければ困るという気持ちがあったにも関わらず、彼が告げた言葉により不本意にも彼らは回心してしまい、そのことに対して神のあわれみと恵みが注がれ、彼らは滅びを免れてしまった、そのことにヨナは打ちのめされ、激怒し、途方に暮れたのです。

そんな苦々しい思いを内に秘めながら、彼はニネベの今後を見届けようと町の郊外に小屋を建てます。そのヨナに対して『時に主なる神は、ヨナを暑さの苦痛から救うために、とうごまを備えて、それを育て、ヨナの頭の上に日陰を設けた』（ヨナ4章6節）とヨナ書は記しています。灼熱の日々、ヨナはこの木を非常に喜びますが『7 神は翌日の夜明けに虫を備えて、そのとうごまをかませられたので、それは枯れた。8 やがて太陽が出たとき、神が暑い東風を備え、また太陽がヨナの頭を照した』（ヨナ4章7節、8節）ので、ヨナは弱りはて、死ぬことを願ってこう言いました『生きるよりも死ぬ

方がわたしにはままだ』(ヨナ4章8節)、『わたしは怒りのあまり狂い死にそうです』(ヨナ4章9節)。

このヨナに対して神様は言います「とうごまのためにあなたの怒るのはよくない」ヨナは答えます「わたしは怒りのあまり狂い死にそうです」そして、このヨナ書はこのような神様の言葉で閉じられるのです『あなたは労せず、育てず、一夜に生じて、一夜に滅びたこのとうごまをさえ、惜しんでいる。11 ましてわたしは十二万あまりの、右左をわきまえない人々と、あまたの家畜とのいるこの大きな町ニネベを、惜しまないでいられようか』(ヨナ4章10節-11節)。

私達は去る二回のメッセージでアモスとホセアというイスラエルの預言者についてみてまいりました。言うまでもなく聖書はイスラエル民族の物語であります。しかし、それはイスラエルの民達の歴史なのではなくて、彼らと共にある神とイスラエルが紡いでいる物語なのです。ですから、その中心には常にイスラエルがおり、それは旧約聖書全体に言えることで、旧約聖書は主にイスラエルを通してなされる神の救済史が記されています。

そう考えますとイスラエル人、すなわちユダヤ人でない私達のような異邦人はそれを不公平だと思ったり自分とは関係のないように感じるのです。しかし、一見、イスラエルを中心として世界と他民族を見ているような旧約聖書の中でこのヨナ書は将来につながる驚くべきメッセージを語っているのです。

すなわちこのヨナ書の最後の言葉は神の恵みとあわれみはイスラエルだけではなく全ての人に注がれているということです。この点においてヨナ書は旧約聖書の中で異色かつ、これから続いていく新約の時代の神の恵みを指し示している書なのです。これがヨナ書のテーマであり、その物語を紡ぐためにヨナという存在がありました。

ヨナは自他共に認める預言者です。ですから神様の御声を聞けば、それをそのまま示された時に、示された場所で語ることが彼がすべきことです。しかし、彼はそれが嫌で示された場所に向かわず全く別の方向へと向かうべく舟

にのりました。明らかにそれは神様がヨナに対して願っていることとは違いました。このことは神様が最初の人間を創られた時に人に与えた一つのことゆえにおきました。そうです、それは私達全ての人間に与えられている「自由な意志」です。神様はその御心に人が従うか従わないかということの最終的な決断を人間の側に与えておられるのです。ヨナはその自由意志を行使して預言者でありながら、その神の言葉に従わなかったのです。

ヨナ書には五回だけヨナに語り掛ける神の言葉が書かれています。今日のタイトルは「神はこうして語られる」ということです。神は言葉のみならず、私達に起こることを通して語られます。そう、それは主のはたらきを通して私達に語られるということです。

神に従わなく別方向に向かったヨナが乗った船に対して『時に主は大風を海の上に起されたので』（ヨナ1章4節）、くじをひいたところ、その原因はヨナと分かりました。ゆえにヨナは海に投げられたところ『主は大いなる魚を備えて、ヨナを飲ませられた』（ヨナ1章17節）のです。その魚の腹の中という全く想定外の場所でヨナはそれまでの歩みを悔い改めたのです。これらの一連の背後には主の存在がありました。そこに主の言葉は一言もありませんが、そこには確かに主のはたらきによる語りかけがありました。

神に従わずに己が道に突き進もうとしているノアに対して神は暴風をもって、また魚に飲ませることにより語りかけ、彼は一切、自分の力が何も役に立たず、身動き一つできない暗黒の魚の腹の中でヨナは悟ったのです。

そしてヨナは陸に吐き出されてから当初、言われていたようにニネベに向かい、主から授かりました言葉を語りました。やっと彼本来の使命をそこで果たしたのです。そうしましたら、彼らは断食をし、大きいものから小さい者にいたるまで、皆が悔い改め、彼らが滅ぼされることは免れたのです。ヨナはこのニネベの人達の回心を見て非常に不快に思い、ニネベの動向を見極めようと小屋を建てます。そんなヨナに対して主は、はたらきかけます。

『時に主なる神は、ヨナを暑さの苦痛から救うために、とうごまを備えて、それを育て、ヨナの頭の上に日陰を設けた』（ヨナ4章6節）のです。ヨナ

はそれを喜びます。しかし、神様は夜明けに虫を備えて、そのとうごまを枯らし、神様は暑い東風をもって再びヨナを猛暑の只中に置きます。『7 神は翌日の夜明けに虫を備えて、そのとうごまをかませられたので、それは枯れた。8 やがて太陽が出たとき、神が暑い東風を備え、また太陽がヨナの頭を照した』（ヨナ4章7節、8節）。

ヨナが喜ぶとうごまを生えさせたのは主、一夜にしてそのとうごまを枯らせたのは主、そして暑い東風を吹かせ、灼熱の太陽をヨナの上に照らしたのも主でした。とうごまの木が彼に心地よい日陰を与えたことには喜んだヨナでしたが、このとうごまが一夜に枯れたことに対してヨナは激怒し、「生きるよりも死ぬほうがましだ」と自分の命を取ってくれと開き直りました。

このところで神様は彼に「言葉」を語るのではなく、彼の「環境」を用いて彼に語りかけました。ここから主は私達に私達が日々、暮らしている環境を通して語りかけるお方であることが分かります。そう、私達がそのことを通して神のお心を悟ることを期待しておられるのです。

しかしながら、このことをお話しする前にまず私達が理解しておかなければならないことは、私達の身の回りに起きます出来事は神様が全て故意に行っていることではないということです。空に向けて投げたボールは必ず落ちてきます。燃え盛る火の中に手を入れれば私達は必ず焼けどします。毒を飲めば、私達の肉体は急激に弱ります。なぜなら、それがこの世界の法則だからです。このように私達の身のまわりで起きる出来事には「原因」と「結果」で成り立っており、それゆえに私達は願っていない環境に置かれることがあります。これらは神が私達に意図的にしていることではありません。

しかし、同時に私達は神様がヨナに対してなされたように私達に大切なことに気がつかせるために私達をある出来事に向き合わせる必要があります。私達はそのことを通して神の存在を知り、同時に自らの心が照らされ、神の心を知るのです。

イエス様はかつて、世の終りの前兆について問われた時には偽の救世主や預言者があらわれたり、天変地異が起ると私達を取り囲む環境の変化を具体的に話されてからこう言われました。28 いちじくの木からこの譬を学びなさ

い。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない（マルコ13章28節－31節）

イエス様はここで「これらの出来事を見過ごすことがないように。これらの出来事が起きたら何が近いのかを考える者となりなさい」と言っているのです。あなたの世界で起きてくるこれらの事象が何を意味しているのかを考えなさいというのです。

私達のクリスチャン信仰は聖書を土台としています。聖書信仰とは聖書のみ言葉を私達の生きる指針とするということです。まさしくその神の言葉は「天地が滅びても、滅びることのない言葉です」この御言葉に対する私達の信仰は不動のものです。私達はその御言葉によって日々の生活の生き方を示され、教えられていくのです。

しかし、同時に私達は私達の身の回りで起っている出来事と体験から神様のメッセージを聞くのです。いちじくの木から夏が近いことが分かるように、思いがけない出来事が起こるのなら、私達はそこから神のメッセージを聞き取るのです。

ヨナはエルサレムの神殿で神の御声を聞いたのではなく、大魚の胃袋の中で祈り、悔い改めたのです。喜んでいたトウゴマの木が枯れた時に、彼は怒り、命までとってくれと言いました。そう、それが自分という人間の赤裸々な姿です。一本のトウゴマの木が枯れただけで、憤りと共にその自らの生死について語っているその状況の只中でイスラエルに対する将来につながる神様の御心に光が照らされ、そこに特筆すべき言葉が語られたのです。

主にある皆さん、私達は私達が日々、直面する出来事に見事に一喜一憂します。喜びならいいのですが、試みになりますと、このことは時に私達は打ちのめされます。好ましいことなら、ああ嬉しい、幸せ、最高と思ひ、試練となりますと、ああ悲しい、不幸、最悪と嘆きます。おそらくほとんどの私達

はこれらの環境をこのような私達の感情による反応だけで受け止めます。しかし、今日、私達がヨナ書で見てきたことは、これらのことの背後に神がはたらいており、私達に何かを悟らせようとしているのです。

自分の思い通りに行かない時が一番、苦しいものです。しかし、そこに神のはたらきがありませんか。自分がこれぞ自分の生き方と思い、突き進んだ時に、ヨナの前途に暴風が吹き荒れたように、私達の前に立ちはだかるものがあるのなら、神様は私達に今一度、そのことを思い直すことを勧めていらっしゃるのかもしれませんが。しかし、さらにそこに邁進しますと、ヨナのが魚に飲まれてしまったように、自ら全く身動きできない無力さというものをしみじみと知らされるかもしれません。ああ、このことを知らせるために神は私をこのように導かれているのだと悟る人はさいわいです。

おそらくヨナは今日で言いますのなら、アンガーマネージメントをすることができない人だったのだと思われます。自分の思い通りにならないと激怒し、死を望むという非常に激やすい人です。しかし、そのヨナの欠点と思われる性格を通して神は真理を語りかけたのです。

神様は私達の体験する出来事の中にメッセージを込めておられるのです。神様は待たれます。その状況、その環境の中で本人が気がつくまで神様は待ちます。愛とは強制ではなく自発的なものだからです。このようなことを色々な局面を通ったであろう、イエスの愛弟子ペテロは悟ったのでしょうか。こう書き記しました。

12 愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、  
13 むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それはキリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである（ペテロ第一の手紙4章12節－13節）。

ペテロは「わたしたちの上に降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむな」といいました。なぜなら、その試みの中にも神様のメッセージが込められているからです。そして、そ



のメッセージは直面している試みを通して、さらに大切なことを私達に気がつかせようとしているということなのです。

私はよくこう祈ります「どうぞ〇〇さんが今日、見ること、聞くこと、その生活の中に起きる出来事の中であなたが彼に、彼女に語りかけてください。それらによってあなたの存在とあなたの偉大さに気がつかれますように」。主はみ言葉を通して語られると同時に、その日の出来事を通して私達に主の御心を示してくださるお方だからです。こう考えます時に、皆さん、何か心当たりとなることはありませんか。今、直面していること、あのこと、このこと、特にそれが試練と思われること、実はその背後にその試練をもってもおつりがくるほどの大切な私達が知るべき神の私達に対する思いが隠されているのです。

主よ、どうか私達が生活するなかで向きあう出来事に対して、それを何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことがありませんように。主は私達の目の前に起きていることを通して、その御心を教えてくださるお方です。私達はその主からのメッセージを聞き取ることができ、それを聞いたのならヨナのように主に立ち返ることができますように。我々の人生の目的は私達の思い通りの人生を送るということではなく、その人生を通して主を知ることができるようにという人生なのです。

『苦しみにあったことは、わたしには良いことです。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました』（詩篇119：71）

もう一度、申し上げます。私達は自分の人生は自分の夢や願いが叶う人生を送りたいと願います。しかし、神の私達に対する思いはそれとは異なり、私達の人生を通して、私達の命の源なる神を知るということ、それが私達の人生の究極的な目的なのです。そして、思えばこれらのことを思いますのなら、私達の人生に起きる全てのことは、主を知るということに一役を担っているのです。お祈りしましょう。